令和7年度版

袋田の滝キャラクター「たき丸」

大子町

土砂災害・洪水

大子地区ハザードマップ

2025年12月時点の情報になります。

保存版

ハザードマップの見方 / 避難行動判定フロー

台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は?

平時に確認

必ず取り組みましょう

ハザードマップで自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

はい

家がある場所に色が塗られていますか?

いいえ → 色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、町からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、**原則として**、危険区域外の安全な場所に避難が必要です。

参照

- **久慈川・押川洪水浸水想定区域**
- **その他の河川流域で氾濫等の危険がある区域**

⇒**「風水害に備えて」**をご覧ください

に該当する世帯は

- **土砂災害(特別)警戒区域**に該当する世帯は

⇒**「土砂災害に備えて」**をご覧ください

※避難とは[難]を[避]けること。
安全な場所にいる人まで避難場所に行く必要はありません。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか?

高齢者等避難

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?

- はい → **警戒レベル3**が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう(日頃から相談しておきましょう)
- いいえ → **警戒レベル3**が出たら、町が開設する**避難所または町が指定している避難施設に避難**しましょう

避難指示

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?

- はい → **警戒レベル4**が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう(日頃から相談しておきましょう)
- いいえ → **警戒レベル4**が出たら、町が開設する**避難所または町が指定している避難施設に避難**しましょう

避難時の感染症対策

新型コロナウイルス感染症が収束しない中でも、災害時には、危険な場所にいる人は避難することが原則です

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な避難行動をとりましょう

知っておくべきポイント

内閣府(防災担当)・消防庁

避難先は、小中学校・公民館だけではありません。
安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。

マスク・消毒液・体温計が不足しています。
できるだけ**自ら携行**してください。

避難施設で**密を避けるため**にやむを得ず**車中泊をする場合**は、浸水しないよう**周囲の状況等を十分確認**してください。

町民の皆さんに平常時からお願いしたいこと

自宅の安全性の再確認

ハザードマップにより、自宅の安全性や避難の必要性を再度、確認してください。

分散避難の検討

避難所が過密状態になることを防ぐため、分散避難を検討してください。

- 在宅避難(自宅の安全性が確保できる方)
- 安全な親戚や知人宅への避難
- 車中避難(安全な駐車場が確保できる方)

避難所生活での留意事項

町が開設する避難所では、新型コロナウイルス等の感染症拡大防止のため以下を徹底します。

- 避難者全員の検温・手指消毒・マスクの着用
- 身体的距離の確保
- 定期的な換気
- 定期的な避難者の健康状態の確認

などを徹底します。

なお、避難所生活では以下の事項に留意してください。

- マスク、体温計、ウェットティッシュなどの衛生用品は、なるべくお持ちください。
- こまめに手洗い(食事前、トイレ使用後など)を励行するとともに、咳エチケットなど基本的な感染対策を徹底してください。
- 町(避難所担当職員)が行う、避難者の定期的な健康状態の確認にご協力ください。
- 発熱や咳の症状がある場合は、速やかに避難所担当職員に申し出てください。

備蓄品 および 非常時持ち出し品

非常時持ち出し品 (とっさの場合に持ち出せるようにリュックサックにつめておきたい)

- ☐ 現金
- ☐ 保険証
- ☐ 預金通帳
- ☐ 印鑑
- ☐ 免許証
- ☐ 救急箱・体温計・除菌シート・消毒液
- ☐ 食品
- ☐ アメ・チョコレート
- ☐ 栄養補助食品
- ☐ 飲料水
- ☐ 缶切り
- ☐ レジャーシート
- ☐ 携帯ラジオ
- ☐ 懐中電灯
- ☐ 乾電池・モバイルバッテリー
- ☐ ライター・マッチ
- ☐ 下着・靴下・タオル
- ☐ 防寒用ジャケット・雨具
- ☐ 長袖・長ズボン
- ☐ 厚手の手袋・マスク
- ☐ 携帯用カイロ
- ☐ ヘルメット・防災ずきん
- ☐ カッター
- ☐ 歯ブラシ
- ☐ お薬(お薬手帳含む)

備蓄品 (3日以上は自力で生活できるように準備)

- ☐ 食品(レトルト食品、アルファ米、缶詰など)
- ☐ 飲料水(一人1日3リットル程度)
- ☐ 給水用ポリタンク・給水袋
- ☐ ティッシュペーパー・ウエットティッシュ
- ☐ 紙皿・紙コップ・割り箸
- ☐ ビニール袋
- ☐ カセットコンロ
- ☐ ラップフィルム
- ☐ 洗面用具
- ☐ 工具セット

乳幼児・高齢者がいる家庭
- オムツ
- 粉ミルク・液体ミルク
- 常備薬

女性の場合
- 生理用品

ローリングストック法

備蓄の新しい方法

普段から少し多めに食材、加工品を買っておき、使ったら使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の食料を家に備蓄しておく方法をローリングストック法と言います。
ローリングストック法のポイントは、日常生活で消費しながら備蓄することです。また、ローリングストックは、食料だけでなく、日常使いできている生活用品(ウエットタオル、カセットボンベ、乾電池、使い捨てカイロなど)にも応用することができます。
ローリングストックで備蓄する食料と合わせて備えたいカセットコンロとガスボンベも、日常で使いながら、常にガスボンベは一定量を確保しておきましょう。

1~2日目

冷蔵庫・冷凍庫の食材を活用

食パンや野菜等は自然解凍により食べる事も可能。

冷蔵庫に食材を買い置きし、冷凍庫にもご飯や食パン、野菜、冷凍食品等の備蓄を。

氷は溶かして飲料水として活用も可能。

停電時、クーラーボックスや保冷剤等を活用して食材の保存を。

調理器具の備え

カセットボンベ1本で約60分使用可能。

1ヶ月で約15本必要(1日30分使用の場合)。

カセットコンロ・ボンベ

停電時等、冷蔵庫の食材や非常食を調理するために必須。

3~7日目

ローリングストック法で備蓄した非常食を活用

ローリングストック法
定期的(1ヶ月に1、2度)に食べて、食べた分を買い足し備蓄していく方法。食べながら備えるため、消費期限が短いレトルト食品等も非常食として扱えます。

その他備蓄しておくと良いもの

- **乾麺(ラーメン・パスタ等)** ゆで時間の短いものを。
- **缶づめ** 野菜や果物の缶詰で栄養を。
- **フリーズドライ食品(スープ等)** スープ類は良質で無い時でも接取可能。

その他のアイデア

- **乾物** ミネラル・食物繊維の補給を。
- **漬物** 伝統的な保存方法で。
- **家庭菜園** 庭やベランダ等も活用して菜園を。

※上記の日数・組み合わせは一例です。ローリングストック法等で1週間分の非常食を蓄えておくとより安心です。
※1週間分の飲料水、また生活用水も備えましょう。飲料水は1人1日3リットル×家族分の準備を。

水害に備えて

大雨情報キャッチ ▶ こんなときのわが家の安全対策。

大雨注意報・警報・特別警報の発表基準

大雨注意報	大雨警報	大雨特別警報
大雨によって災害が起こるおそれがあると予想される場合。	大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合。	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予測され、若しくは数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合。

上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。
気象庁にて、地震により、地盤の緩みを考慮し、揺れの大きかった市町村については、大雨警報・注意報の発表基準(土壌雨量指数基準)を暫定的に引き下げて運用する場合があります。

水害時の心得

●被害の軽減
扉の下の隙間から汚水が入ってくるので、「土のう」や板などで全面を囲み、タオルで隙間をふさぎます。また、ポリタンクなど軽い物は事前に屋内に移しましょう。

●危険なところには近寄らない
切れた電線のそばなど、危険な場所に近寄らないようにしましょう。
また、ほん流水には汚水が混ざっているので、子供などがさわらないように気をつけましょう。

●避難の呼びかけに注意を
危機が迫った時には、緊急告知FMラジオや広報車などから避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には速やかに避難しましょう。

●動きやすい格好で
動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットをかぶり、はき物は水に浸かっても歩きやすいものを選びましょう。レインコートは上下が分かれているタイプがよいでしょう。

●避難の前に確認を
避難する時は、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、床下の通気口などをふさぎ、戸締りを確認しましょう。

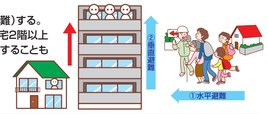
●水面下は危険です。2人以上で避難を
浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認し、2人以上での行動を心がけましょう。

●避難は徒歩で
車での避難は、歩行者・緊急車両の妨げになります。
また、浸水すると動かなくなるので使わないようにしましょう。

●歩ける深さ男性約70㎝、女性約50㎝
洪水の場合、歩ける深さは男性で約70㎝、女性で約50㎝までとされています。ただし、この深さ以下でも危険が生じる場合があります。危険を感じた場合は、深さに関係なく、高い場所で救助を待ちましょう。

避難行動のポイント

- 土砂災害の事象に注意し、早めの避難をする。
- 土石流やがけ崩れの起こる方向に対して横方向に避難(水平避難)する。
- 夜中や大雨の中など外へ避難を行うのが危険と感じる時は、自宅2階以上の山の反対側の部屋など堅固な建物の上階へ避難(垂直避難)することも考慮しましょう。
- 避難情報が発令された場合は、すぐに避難を行う。



土砂災害に備えて

土砂災害

少しでも異常を感じたら、すぐに避難しましょう。

土砂災害の種類
突発的に発生し、すさまじい破壊力で一瞬にして多くの生命や財産を奪ってしまう土砂災害は、大きく3種類に分けることができます。

がけ崩れ・山崩れ
地面にしみ込んだ水分がその抵抗力を弱め、弱くなった斜面が突然崩れ落ちる。日本で最も多い土砂災害で、人家の近くでも発生するため、逃げ遅れて犠牲となる人も多い。

- ●がけからの水がにごる
- ●地下水やわき水が止まる
- ●斜面がひび割れ、変形がある
- ●小石が落ちてくる
- ●がけから音がする
- ●異様なにおいがする

地すべり
脆弱な地質の土地に豪雨が降り、ゆるくなった斜面の一部が地下水の影響と重力で下方へ移動する現象。一度に広範囲で発生するために、住宅や道路などに大きな被害をおよぼす。

- ●地面にひび割れができる
- ●井戸や沢の水がにごる
- ●がけや斜面から水がふき出す
- ●家やふ壁に亀裂が入る
- ●家やふ壁、樹木、電柱が傾く

土石流
谷や斜面にたまった土や石、砂などが、大雨による水と一緒に一気に流れ出す。強大な威力と圧倒的なスピードで、進行方向にあるものを次々とのみ込み、壊滅させていく。

- ●山鳴りがする
- ●雨が降り続いているのに、川の水位が下がる
- ●川の水がにごったり、流木が混ざったりする

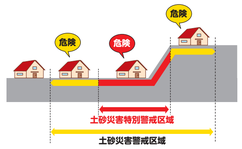
危険箇所をチェックしよう
勾配が30度以上あるがけは、大雨により崩れる危険性が高い場所です。また、がけや盛り土の崩落を防ぐためのよう壁も、その構造や築年数の経過によっては崩れる危険性があります。
日ごろから家の周囲をよく見て、危険箇所がないかチェックしておきましょう。

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域は、土砂災害防止法に基づき、茨城県が指定しています。

土砂災害警戒区域(通称:イエローゾーン)
土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域。危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害特別警戒区域(通称:レッドゾーン)
土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域。
特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。



警戒レベルと避難行動 「マイ・タイムライン」

※このページの記入をはじめる前に、「避難行動判定フロー」をよく読みましょう。

自宅がどの災害の危険区域に入っているか確認しましょう
○自宅が危険区域に入っている場合は、災害に合わせた避難計画(マイ・タイムライン)を作成しましょう。

自分が避難する避難所を確認しましょう
○災害によっては、周辺が危険区域になるため開設しない避難所があります。「指定避難所・指定緊急避難場所」で災害別に開設する避難所を確認し、災害ごとの避難先を決めておきましょう。

避難所までの経路をマップ上に書き込んでおきましょう
○安全なうちに、避難所までの最短ルートで避難できるようにしましょう。やむなく災害が起きてから避難する場合は、危険なルートを避けましょう。

	記入例	洪水浸水	土砂災害
自宅が危険区域内	☑ 自宅が危険区域内にあったら✓	☐	☐
私の地区の避難所	○○○公民館 ○○○学校		
避難所までの経路をマップに書き込み	☑ 書き込みをしたら✓	☐	☐

避難情報に注意 !!
避難情報の確実な収集手段を確認しておきましょう。
★右下の「防災情報の発信」もご参照ください!

- ☐ テレビ
- ☐ 大子町公式ホームページ
- ☐ 大子町公式アプリ
- ☐ 地区の連絡網
- ☐ その他 (　　)

☐ 緊急告知 FM ラジオ
皆さんに避難をお知らせする大切な発信手段の一つです。普段からラジオの入りを確認し、有事の際に備えましょう。

警戒レベル | **大子町が発令** | **避難行動等**

「警戒レベルと避難行動」も確認しておきましょう。

平常時

警戒レベル1 災害への心構えを高めましょう。

大雨のおそれ

警戒レベル2 避難に備え、ハザードマップなどにより避難行動を確認しましょう。

避難開始時期

警戒レベル3 高齢者等避難 — 高齢者、障がいのある人、乳幼児など、避難に時間のかかる人は避難を始めてください。その他の人は、避難の準備を整えましょう。

警戒レベル4 避難指示 — 全員が避難してください。

<警戒レベル4までに必ず避難!>

災害発生

警戒レベル5 緊急安全確保 — 既に災害が発生しています。命を守るための最善の行動をとりましょう。

連絡先を整理しておきましょう。
あなたの世帯の所在がわかるように避難先を知らせておくところや、勤務先・学校・かかりつけ医など何かあったときの緊急連絡先などを記入しましょう。

行政機関の連絡先	電話番号
災害対策本部(大子町役場)	72−1111
消防(火事・救急・救助)	119
警察(事件・事故)	110

住　所			
氏　名		電　話	

	氏　名	電話(会社・学校)	住　所	メモ
家族の連絡先				
親戚知人の連絡先				

	氏　名	生年月日	血液型	アレルギー	常備薬	病　歴
家族の救急用データ						

防災情報の発信

大子町公式ホームページ「ハザードマップ」
https://www.town.daigo.ibaraki.jp/page/dir005523.html

気象庁「あなたの街の防災情報」
https://www.jma.go.jp/bosai/#pattern=default&area_type=class20s&area_code=0836400